近世京都における絵師の居住傾向

THE TENDENCY OF THE PAINTERS' ADDRESS IN THE EARLY MODERN PERIOD IN KYOTO

安 道 永*

Michinaga AHN

The purpose of this study is to solve the tendency of the painters' address in the early modern period in Kyoto. The results are as follows: (1) Painters lived particular streets from Tenmei period. intensive streets were Nizyo-dori, Sizyo-dori, Sanzyo-dori, and Marutamati-dori from Bunka period downward. (2) They lived particular areas from Bunsei period. (3) The number of painters lived south of Sizyo-dori increased from Koka period. (4) The number of painters lived south of Imperial palace increased from Koka period. (5) Many painter, belong to Bunzingaka, Sizyo school, and Kisi school, lived surround Gion, Syogoin village, Hyakumanben, Okazaki village, and Fusimi.

Keywords : Painters, Early modern period, Kyoto, Imperial palace, Suburb

絵師, 近世, 京都, 内裏, 郊外

1. はじめに

本稿の目的は、近世京都における絵師の居所について、その実態を解明する端緒として、年代をおって居住分布の傾向を解明することにある。

近世京都では様々な人名録が発行されたが、本稿では、『平安人物志』^{注1)}、『皇都書画人名録』^{注2)}、『京羽二重』^{注3)}、『京羽津根 (京洛羽津根)』^{注4)}を使用した。これらに収録される絵師の名前・流派・居所を抽出し、年代順に絵師の居住分布の傾向を看取する^{注5)}。

先の人名録において、『平安人物志』が近年注目されている^{注6)}。並木誠士氏は、特定できる絵師の居所を東西筋と南北筋に分解して、その頻度を抽出することで、東西筋では四条通が、南北筋では室町通がもっとも頻度が高いと指摘し、さらに、『平安人物志』9版の中で絵師の居所についてはそれほど大きな変化は見られない、と結論付けている^{注7)}。田島達也氏は、『平安人物志』を配列・順位の問題に注目し、画家および画壇という視点から検討した^{注8)}。武智正晃氏は、『平安人物志』に収録される人物に関する必要最低限の情報把握を目的とし、データベースを作成した^{注9)}。絵師以外の職種では、久保智康氏は鋳師に注目し、居住分布図を作成した^{注10)}。このように、絵師の居所については、すでに多くのデータが公開されている。これらを踏まえて、並木氏は絵師の居所に関する傾向を論じたが、近世における傾向を総括したものであり、近世のいつ頃からその傾向が現れたのか言及されず精細さを欠く。そこで本稿では、新たな史料を加えつつ、公開されているデータを再整理し、これまで作成された居住分布図より、詳細な居住分布図を作成し、もって絵師の居住分布について、その傾向をおっていく。

2. 『平安人物志』、『皇都書画人名録』、『京羽二重』、『京羽津根 (京洛羽津根)』について

『平安人物志』は、明和 5 年 (1768)、安永 4 年 (1775)、天明 2 年 (1782)、文化 10 年 (1813)、文政 5 年 (1822)、文政 13 年 (1830)、天保 9 年 (1838)、嘉永 5 年 (1852)、慶応 3 年 (1867) の計 9 版発行された。発行元は京都の博昌堂と芸香堂である。『皇都書画人名録』は、弘化 4 年 (1847) の序があるが、奥付に発行年は記されていない。発行元は順祥堂ほかである。『京羽二重』は、貞享 2 年 (1685)、宝永 2 年 (1705) に発行された。延享 2 年 (1745) に増補して『京羽二重大全』となり、明和 5 年 (1768)、天明 4 年 (1784)、文化 8 年 (1811) に発行された。『京羽津根 (京洛羽津根)』は、『京羽二重』と『京羽二重大全』の流れを引き継ぎ、文久 3 年 (1863)、元治元年 (1864)、慶応元年 (1865)、慶応 3 年 (1867)、明治 4 年 (1871) に発行された。

表 1 本稿で使用した人名録における絵師の収録数

	収録数	居所記載			居所不記載
		居所特定	他国に遊事	居所不特定	
京羽二重 貞享2年版(1685)	5	4	0	1	0
平安人物志 明和5年版(1768)	16	14	0	1	1
平安人物志 安永4年版(1775)	20	17	1	0	2
平安人物志 天明2年版(1782)	29	27	0	1	1
平安人物志 文化10年版(1813)	93	82	0	1	10
平安人物志 文政5年版(1822)	117	101	5	1	10
平安人物志 文政13年版(1830)	163	149	4	4	6
平安人物志 天保9年版(1838)	137	122	2	8	5
平安人物志 嘉永5年版(1852)	147	136	0	5	6
平安人物志 慶応3年版(1867)	102	94	0	2	6
皇都書画人名録 弘化4年版(1847)	246	230	1	12	3
京羽津根 文久3年版(1863)	15	15	0	0	0

* 関西大学大学院工学研究科 博士後期課程・修士(工学)

Graduate Student, Graduate School of Engineering, Kansai Univ.

表 2 本稿で使用した人名録における絵師一覧

表2-1 京羽二重 貞享2年版(1685)

名前	流派	居所
狩野永真	狩野派	高辻通室町西へ入
狩野外記	狩野派	新町通松原下ル町
土佐		中立売西洞院西へ入
雪溪		東之寺内
狩野縫殿介		新町二条下ル町

表2-2 『平安人物志』明和5年版(1768)

名前	流派	居所
大西幹月	望月派	錦葉師室町西入丁
田山応孝	円山派	四条麩屋町東へ入丁
伊藤若冲		高倉錦小路下ル町
池大雅*		智恩院袋町
与謝蕪村*		新町仏光寺下ル丁
副田谷		四条道場内
村田龍亭		高倉竹屋町上ル丁
鉅鹿民部	円山派	新町綾小路下ル町
島田元直		室町高辻上ル町
関子武吉		七条伏見海道東へ入丁
関山文起		三条堀川東へ入町
建部凌白		鳥丸夷川上ル町
岡野石圃		八条東寺北門前
長谷川青楓		新町四条下ル町
藤野谷古		祇園下河原
池玉樞*		

表2-3 『平安人物志』安永4年版(1775)

名前	流派	居所
田山応孝	円山派	四条麩屋町西工入町
伊藤若冲		高倉錦小路下ル町
池大雅*		祇園下河原
与謝蕪村*		仏光寺鳥丸西工入町
島田元直	円山派	新町綾小路下ル町
池玉樞*		祇園下河原
伏山		笠懸寺中西林庵
望月玉仙	望月派	西洞院丸太町下ル町
大友月湖		車屋二条上ル町
鳥雀修		黒門下立売上ル町
原在中	原派	龍蔵町長者町下ル町
奥春	四糸派	高倉高倉西工入町
鳥羽石隠*		高辻諏訪町角
源瑛	円山派	六角室町東工入町
曾我蕭白		上京
倉屋龍		下立売黒門西工入町
高東谷		真如堂前
温山*		
松隠*		
村上東洲	望月派	木屋町三条下ル町

表2-4 『平安人物志』天明2年版(1782)

名前	流派	居所
円山応孝	円山派	四条堀町東入町
伊藤若冲		高倉四条上ル町
与謝蕪村*		仏光寺鳥丸西入町
島田元直	円山派	新町綾小路下ル町
望月玉仙	望月派	西洞院丸太町下ル町
龍世華		
大友月湖		車屋町二条上ル町
鳥雀修		黒門下立売上ル町
原在中	原派	龍蔵町長者町下ル
鳥羽石隠*		高辻諏訪町角
源瑛	円山派	四条堀町東入町
高東谷		河端二条下ル町
村上東洲	望月派	木屋町三条下ル町
山本茂夜		南替町二条下ル町
青木守次	山本家	西陣升屋町
下村淳名		本阿弥屋舗内
芥川宗斐		西洞院中立売上ル町
三花花顔		二条東洞院東入町
岸駒	岸派	高倉三条下ル町
長沢声雪	円山派	御幸町御池下ル町
紀程孝*		高辻新町西入町
温山*		笠懸寺中
相俊*		相国寺中
大島来禽		衣店竹屋町下ル町
池玉樞*		祇園下河原
岩溪高台		梨之木町
権明*		相国寺光源院
田中南山		堀川上立売下ル町
中村元綱		新町二条下ル町

表2-5 『平安人物志』文化10年版(1813)

名前	流派	居所
土佐光時	土佐派	寺町丸太町
土佐光孚	土佐派	前入隣
鶴沢探春	鶴沢派	油小路竹屋町南
鶴沢探春	鶴沢派	
狩野永俊	狩野派	一条室町西
岸駒	岸派	寺町五条北
岸岱	岸派	間之町竹屋町北
勝山琢眼	勝山家	東洞院竹屋町北
勝山琢文	勝山家	新鳥丸切通
円山応徳	円山派	姉小路高替町西
円山応震	円山派	
東東洋		柳馬場御池南
東東寅		
原在中	原派	聖護院村
原在明	原派	中立売室町東
梅戸在親	原派	
原在善	原派	
吉村蘭洲	円山派	西洞院松原南
吉村孝敬	円山派	
吉村孝章	円山派	同前(西洞院松原南)
山口素納	円山派	祇園袋町
村上東洲	望月派	新町今出川北
田中訥言	土佐派	伏見街道
岡田如丈	四糸派	南替町押小路北
岡本豊彦	四糸派	四糸東洞院東
西村楠亭	円山派	新町仏光寺南
河村文鳳	岸派	金座夷川北

河村埴風	岸派	
石田友汀	鶴沢派	不明門雪隠屋町
狩野永章	狩野派	東洞院三条北
島田元直	円山派	蛤御門前
高嶋千春	円山派	錦小路高倉西
八田千香	円山派	富小路路小路南
上田耕夫	円山派	祇園南
木下広文	四糸派	南替町姉小路北
松村景文	四糸派	四糸富小路西
奥文鳴	円山派	四糸堺町東
山跡鶴嶺	円山派	鳥丸四条北
横山華山	岸派	笠懸町
村上松室	岸派	錦小路西洞院東
長沢声洲	円山派	柳馬場四条北
並河源草	円山派	四糸高倉西
中島来草	円山派	
小田海庵	四糸派	四糸鳥丸西
下河辺玉城	土佐派	室町四条南
佐々木大寿	円山派	四糸堺町東
岡岡規丸	山本家	大宮元笠懸寺南
矢野夜潮	円山派	姉小路太宮東
土岐清美	円山派	葦屋町上中立売北
橋公順	円山派	押小路間之町東
松広成	四糸派	四糸高倉東
佐久間草庵	四糸派	堺町四条北
宮脇有景	土佐派	御幸町御池南
村上直繁	土佐派	神泉苑町
甲賀文龍	望月派	白川側梅宮町
竹内重方	鶴沢派	百万遍屋鋪
雪古亭	円山派	聖護院村
秀雪*		諏訪町松原北
土方寛美		仏光寺柳馬場西
三宅重見		上岡崎村
三宅意誠		今出川小川東
三橋直興		油小路夷川北
勇村義貞		富小路御池北
三谷五雲	円山派	百万遍屋鋪
西村中和		仏光寺鳥丸西
別所東溪	四糸派	富小路三条北
高倉在孝	原派	六軒町一助北
山田正隣	円山派	木屋町二条南
山口正隣	円山派	衣棚出水南
堺町三郎		柳馬場二条北
徳相旭嶺		
渡辺良景		富小路押小路南
鳥羽石隠*		高辻諏訪町
羽林竹洞*		衣棚二条南
浦上玉堂*		柳馬場二条北
浦上春琴*		
山崎文軒*		車屋町二条北
世継希徳*	円山派	三条高倉西
福井応周*		鳥丸御池北
鑑米露珍*		室町綾小路南
中嶋虎嶺*		西洞院中立売南
佐藤龍月*		堺町松原北
西谷露城*		高倉錦葉師南
旭応*		東山永親堂)
玉清*		同前(東山永親堂)
月峰*		東山双林寺
奇堂*		双林寺門前
明堂*		紫野大徳寺中 妙東
謙法*		寺町錦葉師南
月亭*		寺町西洞院万寿寺
月暹*		鳥丸三条南
南猷*		東福寺中
玉響*		

表2-6 『平安人物志』文政5年版(1822)

名前	流派	居所
土佐光禄	土佐派	寺町丸太町
土佐光孚	土佐派	寺町丸太町
土佐光清	土佐派	寺町丸太町
土佐光澤	土佐派	寺町丸太町
鶴沢探春	鶴沢派	油小路竹屋町南
狩野永岳	狩野派	鳥丸蛤御門前
岸駒	岸派	室町四条南
岸岱	岸派	東洞院竹屋町北
岸良	岸派	室町四条南
円山応瑞	円山派	姉小路高替町西
円山応震	円山派	
東東洋		柳馬場御池南
原在中	原派	小川中立売北
原在明	原派	中立売室町東
梅戸在親	原派	
原在善	原派	
西村楠亭	円山派	綾小路室町西
田中訥言	土佐派	南替町二条北
岡本豊彦	四糸派	四糸東洞院東
吉村孝敬	円山派	西洞院松原南
吉村孝文	円山派	
松村景文	四糸派	堺町四条北
横山華山	岸派	室町一条南
山跡鶴嶺	円山派	仏光寺柳馬場東
村上松室	岸派	錦小路西洞院東
河村埴風	岸派	金座夷川北
上田耕夫	円山派	南禅寺傍
長沢声洲	円山派	柳馬場四条北
三谷五雲	円山派	百万遍竹門屋鋪
龜岡規丸	山本家	大宮元笠懸寺南
矢野夜潮	円山派	四糸堺町東
高嶋千春		遊江部
土岐清美	円山派	上長者町金座西
小田海庵	四糸派	高替町二条南
松広成	四糸派	嵯峨天龍寺傍
甲賀文龍	望月派	白川側梅宮町
竹内重方	鶴沢派	百万遍竹門屋鋪
三橋直興		油小路夷川北
比喜多宇隆	四糸派	室町一条南
別所東溪	四糸派	富小路三条南
高倉在孝	原派	六軒町一条北
木村雪堂		新堀木町丸太町南
山口正隣	円山派	衣棚出水南
世古鶴年		聖護院村

三宅重見		上岡崎村
村上直繁	土佐派	堀川二条南
三宅意誠		今出川小川東
村田俊		堺町三条北
浮田一蕙	土佐派	木町松原南藤嶋
中島来章	円山派	在大津
松川龍樞	四糸派	車屋町夷川南
岡司南峰		西洞院姉小路南
高井豊泉		一条新町東
永松鶴年	岸派	御池室町西
佐々木鳳仙	岸派	南替町二条南
望月玉川	望月派	鳥丸竹屋町南
福知白瑛	円山派	二条堺町西
村井三益	岸派	鳥丸今出川北
百々広年	四糸派	四糸高倉東
田中日章	四糸派	不明五条南
石田友徳	鶴沢派	東中筋雪隠屋町
林鶴洲		丸太町堺町東
西村十文園		油小路松原南
井井華陽	岸派	高倉錦錦小路南
斎藤蘭亭		新町今出川北
浦野在成	原派	間町二条北
恒松元孝	土佐派	岡崎村葉田
小沢春岳	岸派	新町武者小路南
八田吉岳	円山派	富小路姉小路南
小野湘雲	四糸派	富小路四条北
渡辺東山		富小路押小路南
小川芦汀		鳥丸押小路北
吉岡茂喬		西洞院二条北
角能芹亭		衣棚出水南
大倉笠山		高倉錦二条北
山本探淵	鶴沢派	寺町五条北
勝山琢眼	勝山家	新丸太町切通
勝山琢文	勝山家	
狩野永章	狩野派	高替町二条南
景山洞玉	狩野派	
宮脇有景	土佐派	御幸町御池南
狩野正英	狩野派	堺町丸太町南
日勢庸信		聖護院村
西村中和		仏光寺鳥丸西
速水春曉斎		高替町三条北
速水恒茂		
鳥羽希隠*		高辻諏訪町
中林竹洞*		聖護院村
山崎文軒*		東洞院夷川北
世統希徳*	円山派	二条高倉西
鈴木世孝*		梅小路齊政館
垣本雪臣*	四糸派	今道浪花
福井応周*		鳥丸御池南
浦上春琴*		鳥丸二条南
谷町久敬*		八幡
松村公劉*		川端丸太町南
大瀬花隠*		高台寺前
大谷東海*		笠懸寺境内
大倉佐登子*		
池之坊専定*	岸派	在四糸東洞院東(池之坊)
池之坊専定*		西洞院中立売北
百々照子*		四糸高倉東
黒田西庵*		百万遍屋敷
赤井蘭圃*		錦小路東洞院東
雨森敬孝*		中筋松原南
松春養*		
西村久里子*		油小路松原南
小原端木*		御幸町押小路南
可多山鶴亭*		木履町松原南
旭応*		在巻屋
明堂*		大徳寺中
謙法*		寺町錦葉師
月亭*		在笠懸寺中
月暹*		東福寺中
奇堂*		東山双林寺
器外*		双林寺門前葛真居
		妙心寺中

表2-7 『平安人物志』文政13年版(1830)

名前	流派	居所
土佐光孚	土佐派	寺町丸太町
土佐光清	土佐派	寺町丸太町
土佐光澤	土佐派	寺町丸太町
鶴沢探春	鶴沢派	油小路竹屋町南
狩野永岳	狩野派	鳥丸蛤御門前
岸駒	岸派	在北岩倉
岸岱	岸派	東洞院竹屋町北
岸良	岸派	東洞院竹屋町北
岸連山	岸派	室町四条南
東東洋		高替町御池北
東東寅		高替町御池北
原在中	原派	小川中立売北
原在明	原派	中立売室町東
梅戸在親	原派	
原在善	原派	
西村楠亭	円山派	綾小路室町西
岡本豊彦	四糸派	四糸東洞院東
吉村孝敬	円山派	西洞院松原南
吉村孝文	円山派	西洞院松原南
松村景文	四糸派	堺町四条北
横山華山	岸派	室町一条南
村上松室	岸派	錦小路西洞院東
河村埴風	岸派	金座夷川北
長沢声洲	円山派	柳馬場四条北
長沢声鳳	円山派	柳馬場四条北
上田耕夫	円山派	今道浪花
龜岡規丸	山本家	大宮元笠懸寺南
松広成	四糸派	四糸東洞院西
甲賀文龍	望月派	白川側梅宮町
土岐清美	円山派	中長者町新町東
小田海庵	四糸派	高替町二条南
小田百川		高替町二条南
三橋直興		油小路夷川北
比喜多宇隆	四糸派	寺町丸太町
別所東溪	四糸派	富小路押小路南

高倉在孝	原派	六軒町一条北
佐々木百福		
横山清輝	四糸派	六角室町東
山口正隣	円山派	衣棚出水南
世古鶴年		聖護院村
三宅重見		上岡崎村
村上直繁	土佐派	堀川二条南
三宅意誠		堀川二条南
村田俊		堺町三条北
浮田一蕙	土佐派	三本木
中島来章	円山派	衣棚御池北
松川龍樞	四糸派	車屋町夷川南
百々広年	四糸派	四糸高倉東
岡司南峰	四糸派	不明五条南
西村日章		西洞院姉小路南
赤松鶴年	岸派	一条新町東
佐々木鳳仙	岸派	御池室町西
望月玉川	望月派	衣棚御池北
福知白瑛	円山派	二条堺町西
村井三益	岸派	鳥丸今出川北
石田友徳	鶴沢派	東中筋雪隠屋町
村田俊		高井高辻北
西村十文園		油小路松原南
井井華陽	岸派	高倉錦錦小路南
斎藤蘭亭		新町今出川北
浦野在成	原派	間之町二条北
小沢春岳	岸派	新町武者小路南
渡辺東山		富小路押小路南
小川芦汀		鳥丸押小路北
東容齋		四糸東洞院東 廣西村氏
渡辺衛吉		大仏馬町
多村孝秀	円山派	高倉夷川北
吉岡茂喬		鳥丸姉小路北
柴田義峰	四糸派	錦葉師室町西
蒲生東源		六条
高倉茂喬	円山派	金座二条北
吉田山溪	四糸派	三条東洞院東
柴田広茂	四糸派	四糸高倉東
原田九美	四糸派	錦葉師鳥丸西
小野柳雲	四糸派	富小路四条北
藤村登汀		山科里沙門堂
原左門		北嵯峨
佐々木朗耀		錦小路鳥丸東
沢渡精斎	四糸派	四糸鳥丸東
榎山景映		堺町二条北
笹山虎嶺		御池衣棚東
中村春亭	四糸派	室町松原
木村秀嶽		柳馬場五条北
近藤有芳	岸派	河原町丸太町西
文影		松原大黒町西
竹村文混	四糸派	四糸東洞院西
高台寺前		錦葉師新町東
笠懸寺境内		新町今出川南
新見広有		油小路六角南
白神平介	四糸派	綾小路麩屋町南
北川春成		三条橋東
山本探淵	鶴沢派	寺町五条北
勝山琢眼	勝山家	新鳥丸切通
勝山琢文	勝山家	新鳥丸切通
狩野永章	狩野派	高替町二条南
景山洞玉	狩野派	高替町二条南
狩野正英	狩野派	堺町丸太町南
日勢庸信		聖護院村
海北友徳	海北家	西陣
恒松元章	土佐派	岡崎村葉田
宮脇有景		御幸町御池南
井上恭徳		西洞院上長者町北
西村中和		仏光寺鳥丸西
東嶋雲仙		金座姉小路北
泉園園	岸派	室町中立売南
谷口華明	岸派	落北松崎
中嶋華陽	岸派	寺町丸太町北
川辺華陽	岸派	新町中立売北
平子雄峰		富小路錦葉師南
相山景映		堺町二条北
堀田東良		小堀袋町角
中林竹洞*		高倉竹屋町北
山崎文軒*		間之町一条南
世統希徳*	円山派	三条高倉西
鈴木世孝*		梅小路齊政館
垣本雪臣*	四糸派	今道浪花
福井応周*		
池之坊専定*	岸派	四糸東洞院東(池之坊)
岡本匡保*		上茂
平塚節斎*		城西

西村久里子*	油小路松原南
大倉佐登子*	
百々照子*	四条高倉東
榎風*	富小路錦小路北
梁川紅蘭*	柳馬場二条北
月峰*	東山双林寺
朗雪*	大徳寺中
護法*	寺町娯楽師
月亭*	在喜願寺中
玉儒*	東福寺中
玉樹*	仏光寺中(大善院)
奇掌*	双林寺門前葛買居
義亮*	東山双林寺
清亮*	居双林寺境地大雅堂
魯堂*	妙心寺中
器外*	妙心寺中
良担*	再出

表2-8 『平安人物志』天保9年版(1838)

名前	流派	居所
土佐光孚	土佐派	寺町丸太町
土佐光清	土佐派	寺町丸太町
土佐光祿	土佐派	寺町丸太町
土佐光文	土佐派	寺町丸太町
鶴沢探春	鶴沢派	下長者町千本東
鶴沢探龍	鶴沢派	下長者町千本東
狩野永岳	狩野派	室町下立売南
狩野永朝	狩野派	鳥丸下立売南
円山応震	円山派	姉小路室町東
岸駒	岸派	北岩倉
岸岱	岸派	東洞院丸太町南
岸慶	岸派	東洞院丸太町南
岸礼	岸派	
岸良	岸派	室町四条南
岸連山	岸派	柳馬場押小路北
原在明	原派	中立売室町東
原在照	原派	中立売室町東
梅戸在親	原派	小川中立売北
大島在謙		上長者町室町東
大口秀芳		三条東洞院東
多村孝秀	円山派	高倉奥川北
島田雅喬	円山派	釜屋二条北
座田重就	武者小路室町西	
岡田豊彦	四条派	四条東洞院東
松村景文	四条派	四条東洞院西
村上松堂	岸派	錦小路西洞院東
村上松嶺	岸派	錦小路西洞院東
河村瑞鳳	岸派	釜屋奥川北
紀田成	四条派	四条東洞院西
長沢芦洲	円山派	柳馬場四条北
長沢芦風	円山派	柳馬場四条北
甲賀文雄	望月派	白川創梅宮町
山崎清隆	四条派	新町四条北
中島豪達	円山派	富小路姉小路北
田中白晝	四条派	堺町四条北
福知白瑛	円山派	二条堺町西
吉村孝文	円山派	新町御前通南
三橋真興		油小路奥川北
比嘉多平隆	四条派	室町出水北
別所東達	御馬場御池南	
高倉在孝	原派	六軒町一条北
山口正辨	円山派	衣櫛出水南
村田俊	堺町三条北	
浮田一恵	土佐派	木屋町二条南
望月玉川	望月派	室町竹屋町北
石田有汀	鶴沢派	東中筋富路屋町
杜鶴洲	東洞院奥川北	
斎藤蘭亭		中立売室町西
小斎華岳	岸派	新町武者小路南
渡辺東山		小路押小路南
小川声汀		一条室町西
吉岡茂喬		堀口鶴秀
蓮生竹山	円山派	西六条
織田東民		洛東山
柴田仙溪	四条派	鳥丸押小路北
吉田広均	四条派	室町姉小路南
岡本茂彦	四条派	塔之壇幸神町
藤村春汀		山科
原左門門		北嵯峨
沢渡精斎	四条派	四条鳥丸東
楢山景映		御池衣櫛東
中村春亭	四条派	室町松原南
木村秀繼		柳馬場五条北
近藤有芳	岸派	河原町丸太町北
竹村文照	四条派	四条東洞院西
津田具輔		新町今出川南
新見広友		西替町三条北
北川春成		二条橋東
東東夷		下川原
勝山琢眼	勝山家	新鳥丸切通
勝山琢文	勝山家	新鳥丸切通
景山洞玉	狩野派	堀替町二条南
海北有徳	西陣	
宮脇景福		木屋町松原南
井上恭徳		西洞院上長者町北
辰春園	岸派	室町下立売南
谷口華明	岸派	洛北松崎
中島華陽	岸派	聖蹟院
川辺華隆	岸派	新町中立売北
平子雄峰		東洞院錦小路北
渡辺丹雄	円山派	東中筋御前通南
黒田梅園		東洞院綾小路南

佐々木朗耀		錦小路鳥丸東
百々広年	四条派	御幸町奥川北
吉坂鷹峰	円山派	柳馬場三条南
大角英華		四条鳥丸東
菱川雪艇		今道南紀
八嶋岳亭		木屋町三条北
武沢揚岸		娯楽師魁屋町西
横山華溪	岸派	室町一条南
中林竹洞*		御幸町押小路北
小田海樗*	四条派	六角柳馬場東
山崎文軒*		間之町二条南
世統希儒*	円山派	三条高倉西
鈴木孝孝*		梅小路斎斎館
山本梅造*		衣櫛御池北
岡本匡保*		上賀茂
松村公劉*		木屋町四条北
浦上春孝*		釜屋奥川北
藤井雪堂*		聖蹟院村
藤井春影*		出文稚部
黒田西郷*		百万遍屋敷
赤田蘭嶼*		錦小路東洞院
雨後敬亭*		鳥丸綾小路南
小原端木*		
桂吳鳳*		西替町二条南
岩城文華*		西洞院竹屋町北
桂青洋*		新町娯楽師上
大富堂山*		新橋本町二条北
市田万里*		堺町姉小路北
今小路悠山*		聖蹟院
原文孝*		岡崎
伏田舒嘯*		岡崎
谷部久敬*		八幡
秋吉錦水*		
早藤春英*	四条派	六角屋小路西
砂川柳絲*		
脇坂湖山*		錦小路魁屋町東
下村震佳*		一条新町西
榎風*		富小路錦小路北(常行寺)
梁川紅蘭*		柳馬場二条北
小西松崎*		寺町姉小路北
月峰*		双林寺
義亮*		双林寺
清亮*		双林寺寺在大梵堂
護法*		寺町娯楽師
玉樹*		東福寺中
魯堂*		仏光寺中(大善院)
器外*		妙心寺中
照阿*		妙心寺中
大倉*		霊願寺中
子然*		鏡天寺
随明*		鏡天寺
幽明*		鏡山 行光坊
梅岳*		一条智慧光院中
山田竜淵*	四条派	四条高倉小路東

表2-9 皇都書画人名録 弘化4年版(1847)

名前	流派	居所
藤井明忠	四条派	小堀役町
山本雪泉		祇園社内西梅坊
駒井寛鳴	四条派	下河原
嶋田宣明	四条派	安井御門莞天町
正智海	四条派	洛東東山
高橋通八		五条坂若宮八幡西南
數九華	四条派	大佛前殿御門前
前川三嶺	四条派	高倉通正面上
澤石山		東六条土手町正面上
雲華院		同上馬場土手町
仲尾荆香	四条派	東洞院七条上二丁目
藤本豪洲	四条派	諏訪町魚橋北
秋音女史*		鳥丸魚橋上
堀口鶴秀	岸派	不朔門通魚橋
田邊春機	岸派	間之町魚橋上
理梅殿		高倉五条南西寺
中村魚水		五条橋西御影堂中
山本探斎		寺町万寿寺下
脇坂湖山*		寺町五条上
吉原真龍		寺町万寿寺上
吉本碩山*		寺町松原上
大角南耕	四条派	松原魁屋町西
山本水畫*		木屋町松原北
岡分文友	四条派	萬木屋町佛光寺橋北
山田龍淵	四条派	四条河原町西
喜多川祭鳥	四条派	京極四条中川ノ東住
別所孝一*		娯楽師御幸町西
梅川東南		御幸町四条下
榎川練羽	四条派	御幸町四条下
白川芝山		御幸町綾小路下
石田逸翁	岸派	魁屋町綾小路下
松尾秀山	四条派	魁屋町高辻下
山口素岳	円山派	富小路松原下
住田密偶*		堺町松原下
堀川雪江		柳馬場佛光寺上
龍文堂		富小路四条上
長沢芦州	円山派	錦小路小路下
長沢芦風	円山派	柳馬場錦小路下
木村茂舟	狩野派	四条柳馬場北
岡本亮彦	四条派	堺町四条下
岡本亮彦	四条派	堺町四条下
鈴木百年	鈴木派	四条堺町西
岡本俊彦	四条派	四条高倉西
織田梅彦	四条派	四条東洞院東

望月松溪	望月派	東洞院四条上
梅室素信		東洞院四条北
内藤文英	四条派	東洞院四条上
網嶋昌鳳	四条派	錦小路東洞院西へ入
小川九春*		錦小路東洞院西へ入
澤渡精斎	四条派	四条鳥丸東
斎藤玄宣	四条派	東洞院四条上
大西千秋		中津藩中 在京
寺西精善		同町北側
吉田順徳	四条派	同町南側
中林竹溪*		四条東洞院西
佐々木監水	勝山家	東洞院綾小路下
上代英彦	四条派	東洞院佛光寺下
松本義平		同町
雨森敬亭*		鳥丸綾小路下
駒井孝礼	円山派	鳥丸綾小路下
岸良	岸派	室町四条下
岸五郎	岸派	室町四条下
藤重春山*		室町綾小路西
大原杏舟	四条派	室町佛光寺上
前田暢堂*		室町高辻上
中村孝亭	四条派	室町松原下
森田恒監		新町松原上
大杉松岳	円山派	新町五条上
山本露山	円山派	油小路五条上
石田悠汀	鶴沢派	東中筋五条南
相友篤	鶴沢派	東中筋五条南
吉村孝文	円山派	六条中筋魚橋下
吉村孝一	円山派	六条中筋魚橋下
下間徳山		西六条
下間徳山		同所
渡辺丹雄	円山派	東中筋御前通下
蓮生竹山	円山派	西六条堀川七条南
浦生峰崎	円山派	西六条堀川七条南
呉玉文	四条派	大宮西南側
足田玄部		六孫王大道寺境内
森寛斎	円山派	堀川佛光寺上ル
村上松嶺	岸派	錦小路西洞院東
岩崎文礼	四条派	錦小路新町西
横山清雄	四条派	新町小路下
宮崎露谷	四条派	當時内塾
竹川玄広	四条派	観音堂辻子新町東
森義章	四条派	室町四条上
川部玄園		室町四条上
中川東林*		室町錦小路下
横山春雄	四条派	新町錦小路下
三谷五峰	四条派	錦小路室町西
村瀬石川	四条派	錦小路室町西
清水春雪	四条派	新町錦小路下
桂青洋*		同町(新町娯楽師下)
大路清鳳		娯楽師室町西
堀川文雄	四条派	娯楽師新町西
岡田長年		
泉文龍		
八木奇峰	四条派	新町三条下
鎌田景麟	四条派	新町六角上
廣野三松軒		三条新町東へ入了頓辻子
山本梅仙*		六角室町上
中葛竹仙		室町娯楽師下
青根九江*		娯楽師室町東
長谷川玉峰	四条派	堺町娯楽師上
小山寛嶺	岸派	堺町六角下
早藤春英	四条派	六角柳馬場東
磯野華堂	四条派	堺町三条上
小沢華嶽	岸派	柳馬場姉小路上
中島豪達	円山派	富小路姉小路上
松村公劉*		富小路三条下
森俊章	四条派	御幸町御池上ル
笠川友泉		木屋町二条南樋ノ口下
張紅蘭*		木屋町樋口上
大倉堂山*		新橋木町二条上
佐登子*		新橋木町二条上
下村進道	円山派	御幸町二条上
日根封山*		御幸町二条下
桂竹南*		前人在塾
加藤精英	岸派	魁屋町二条上ル
近藤有芳	岸派	二条富小路東
富田光彰	四条派	富小路二条下
澤吳峨*		富小路姉小路下
岸龍山	岸派	押小路柳馬場東
井上水村		同町(押小路柳馬場東)
菱田天成	円山派	柳馬場押小路下
岸連山	岸派	柳馬場押小路下
若林竹園*		二条堺町西
多村孝秀	円山派	高倉奥川上
勝山琢如	勝山家	間之町二条上
野口口基正		高倉押小路上ル
野呂探虚		間之町押小路下
伏原春雄	円山派	東洞院姉小路下
海徳屋福	四条派	押小路車屋町角
佐々木乾道		娯楽師鳥丸東
高天美		南替町二条下ル
百々広年	四条派	同町(西替町二条下ル)
田中馬溪		室町二条南
岡村治蔵	円山派	錦屋上
岡井成文	円山派	南替町姉小路下
島田雅喬	円山派	釜屋二条上
窪田聖應		西洞院三条上
有山旭峰	四条派	油小路姉小路下
吉江文雄	四条派	同町(油小路姉小路下)
吉田松松		同町西側屋敷内

竹尾葵溪		
大野凌雲		千本
三井松山		油小路二条下
三井孫之		油小路二条下
建部了幽		小川二条下
膳目執士		上林墨水
上林墨水		油小路奥川上
澤生春園*		釜屋奥川上
中西光女	望月派	下立売釜屋西
望月玉川	望月派	新町丸太町上
望月玉溪	望月派	新町丸太町上
清水珉山	望月派	前人在塾
狩野永猷	狩野派	室町榎木町下
五井鳩山	岸派	室町榎木町上
川北春谷*		鳥丸下立売上
冷泉恭恭		鳥丸丸太町下
鶴川恭義		前人在塾
倉光忠道	四条派	下立売御門南
谷口蘭山		衣櫛下立売下
楠本了静		東洞院竹屋町下
望月玉来	望月派	鳥丸竹屋町下
吉坂鷹峰	円山派	車屋町竹屋町上
岸岱	岸派	東洞院丸太町南
岸慶	岸派	東洞院丸太町南
岸礼	岸派	東洞院丸太町南
岸誠	岸派	東洞院丸太町南
原南荆	四条派	丸太町富小路東
土佐光孚	土佐派	寺町丸太町上
土佐光清	土佐派	寺町丸太町上
土佐光文	土佐派	寺町丸太町上
土佐光祿	土佐派	寺町丸太町上
森津主水	四条派	丸太町三本木南
伏屋美山	四条派	丸太町三本木南
勝山豚文	勝山家	新鳥丸上切通角
勝山松葉	勝山家	新鳥丸上切通角
羽倉栞東*		北百万遍屋敷
森寛斎	岸派	北百万遍屋敷
黒田西郷*		百万遍屋敷
原在照	原派	中立売室町西
山崎華溪	岸派	室町中立売上
楢山華庵	岸派	同町前人在弟(室町中立売上)
楢山花逸	岸派	同町前人在弟(室町中立売上)
谷口華明	岸派	室町一条上
座田重就		武者小路室町西
泉春園	岸派	室町半丁西一条上
木村桃里		一条新町西
木村善齋*		一条新町西
梅戸在親	原派	小川中立売上
陶鈞軒		油小路一条南
河合西齋		油小路上長者町上
川辺華院	岸派	下立売小川東
吉田元振	鶴沢派	下立売小川角
京田龍成	鶴沢派	下立売小川角
伊庭大居		慶屋町下立売上
鶴沢探龍	鶴沢派	下長者町千本東
辻村清浩*		慶屋町中立売下
畑南庵	原派	慶屋町上長者町上
西藤月灯*		一条龍屋町角
林其山	原派	黒門中立売上
小林了可		一条西洞院東
神田道伴		一条西洞院東
中村水竹*		西洞院一条下
辻南洋	岸派	元喜齋寺小川東
高尾養生		今出川鳥丸
柳田蘭重	四条派	新町頭東鞍馬口南
馬淵旭山		鞍馬口室町
山本鶴青*		上賀茂初官
岡本椿隆		上賀茂初官
岡本天寿	四条派	上賀茂初官
藤本保必	四条派	上賀茂初官
山本孝彦	四条派	上賀茂初官
河村瑞鳳	岸派	市原野
河村文鶴	岸派	市原野
高山蘭英	四条派	寺町頭鞍馬口南
林蘭雅	四条派	寺町今出川上四丁目塔之壇榎木町
村雲友章		同所南町
三浦益彦	四条派	同所北横町
江森孝一		寺町二筋東今出川上立本寺屋敷四丁目
一風*		洛東百万遍智恩寺中住
今小路悠山*		應享東山端東橋木町
税所五章		洛東丸太町若松町
俣野雷岳	四条派	丸太町下若松町
中島春陽	岸派	森通中程南側
大角有隣	四条派	洛東吉田村
中林竹洞*		東山真如室前
香川景嗣		東山双林寺傍
伏田秀嶺*		東山双林寺傍
高島式部		双林寺妙吉寺
蓮月坊		東山双林寺
蓮月尼		上岡崎
海徳有種	岸派	上嵯峨山
羽倉可亮	四条派	伏見稻荷社内
實徳院		紫野大徳寺
柴田仙溪	四条派	知恩院古門前切通東
義亮*		東山双林寺傍
清亮*		東山双林寺傍
實名関令		東山双林寺
宮川白峰		双林寺前葛買町東行當
長谷川等舟		佛光寺室町東
後藤維部		新鳥丸丸太町下

表2-10 『平安人物志』嘉永5年版(1852)

名前	流派	居所
土佐光学	土佐派	寺町丸太町
土佐光清	土佐派	寺町丸太町
土佐光文	土佐派	寺町丸太町
鶴沢探龍	鶴沢派	下長者町千本東
狩野永岳	狩野派	室町丸太町東
勝山琢文	勝山家	新烏丸切通
岸岱	岸派	東洞院丸太町
岸礼	岸派	室町四条南
岸良	岸派	岩倉
岸連山	岸派	柳馬場二条南
岸誠	岸派	岸岱三男父同居
原在照	原派	中立亮室町東
梅戸在親	原派	小川中立亮北
大口秀芳		
多村孝季	円山派	高倉夷川北
島田雅喬	円山派	釜座二条北
座田重就		武者小路室町西
下村一幸	円山派	御幸町二条北
河村琦鳳	岸派	洛北市原
冷泉為恭		西洞院下立亮北
横山清輝	四条派	新町四条北
中島成章	円山派	富小路姉小路北
村孝老文	円山派	東中筋魚棚南
長沢芦鳳	円山派	柳馬場四条南
円山応立	円山派	姉小路面替町
高倉在孝	原派	六軒町一条北
望月玉川	望月派	新町丸太町北
狩野永朝	狩野派	室町丸太町南
高橋正順		東洞院綾小路南
村上松嶺	岸派	姉小路西洞院東
小川芦汀		一条室町西
蒲生竹山	円山派	西六条
柴田仙溪	四条派	東洞院夷川北
堺口公均	四条派	堺町二条南
藤村春汀		山科
原左門		北嵯峨
沢渡精斉	四条派	四条烏丸東
中村春幸	四条派	室町松原南
木村秀藏		柳馬場五条北
岸龍山	岸派	押小路柳馬場東
竹村文琨	四条派	堺町三条北
津田呉輔		新町今出川南
吉坂鷹峰	円山派	六角富小路西
勝山琢如	勝山家	間之町二条北
泉春園	岸派	一条室町十文坊辻子
谷口華明	岸派	室町一条北
中島華陽	岸派	聖護院村
渡辺丹雄	円山派	東中筋御前通南
黒田梅園		
大角榮華		四条烏丸東
鈴木百年	鈴木派	四条堺町西
武沢揚岸		大宮一条南
横山華溪	岸派	室町一条東
岡本亮彦	四条派	堺町四条南
岡本常彦	四条派	東洞院四条北
吉田順祥	四条派	四条東洞院西
山田電淵	四条派	四条川原町西
塩川文雄	四条派	娯業師新町西
森俊章	四条派	御幸町御池北
大原吾舟	四条派	室町仏光寺南
林蘭雅	四条派	塔之檀桜木丁
駒井孝礼	円山派	烏丸綾小路南
石田逸翁	岸派	東洞院娯業師南
吉江文雄	四条派	小川娯業師北西
日根対山		南替町御池南
森寛斎	円山派	堀川仏光寺北

森義章	四条派	室町四条北
近沢百峰		御幸町姉小路北
笠川友泉		富小路二条南
木村梁舟	狩野派	四条柳馬場西
山本探斎	鶴沢派	寺町万寿寺南
田辺春雄		間之町魚棚北
樋口翠江		不明門通魚棚
佐々木藍水		東洞院綾小路南
八木奇峰	四条派	新町三条南
岸順堂	岸派	南替町押小路北
早藤春英	四条派	六角駄屋町角
石田悠汀	鶴沢派	東中筋五条南
海北友権	海北家	塔之檀
上田桃橋	四条派	伏見南替町
中川雲屏		仏光寺柳馬場西
祐友鷹	鶴沢派	東中筋五条南
三谷五峰	四条派	姉小路室町西
高松圭峰		間之町二条南
綿田梅坡		広小路寺町東
仲尾荊香	四条派	東洞院七条南
松村月樵	四条派	四条駄屋町東
林耕雲	四条派	十文坊辻子
長谷川玉峰	四条派	柳馬場三条北
窪田雪庵		釜座夷川北
山口素岳	円山派	富小路松原南
有山旭峰	四条派	油小路御池南
箕田霞峰		御室
藤木菱洲		諏訪町五条南二町
岡村雪峰		富町町押小路南
小野玉嶺	望月派	衣櫛押小路北
国分文友	四条派	松原愛宕寺中
中川江雲		新堀木町丸太町南
村瀬雙石	四条派	姉小路室町西
山口連谷		堺町川北
宮崎周輔		新町四条北
泉梅泉		娯業師町西
麥田美成		柳馬場押小路南
天高美		烏丸丸太町南
林其山		黒門中立亮南
馬淵旭山		鞍馬口室町
篠田忠山		柳馬場四条南
小林竹洞*		真如堂前
小田海樸*	四条派	六角柳馬場東
山本梅造*		富小路六角南
岡本匡保*		上賀茂
藤井春影*		
黒田西郷*		百万遍屋敷
雨森敬亭*		
桂呉鳳*		南替町二条南
桂青洋*		新町娯業師南
原文琴*		岡崎
伏田鈴嚙*		岡崎
秋吉錦水*		
義光*		双林寺
清亮*		横山寺寺大雅堂
砂川柳絲*		
中林竹溪*		四条烏丸東
脇坂湖山*		寺町姉小路北
住田鶴仙*		高辻高屋西
後藤田南溪*		岡崎
青根久江*		娯業師室町東
前田暢堂*		室町高辻北
生川九春*		南替町二条南
吉本硯山*		東洞院四条北
藤重春山*		室町綾小路南
名草逸峰*		富小路娯業師南
沢呉映*		富小路御池北
窪田松潭*		富小路御池南

山本梅屋*		烏丸仏光寺南
原文量*		聖護院新道
俊玉*		寺町娯業師
魯堂*		妙心寺中
照阿*		雲山
忍達*		叡山
梅岳*		恵光院中
瑞高*		伏見街道十丁南
永常*		一条殿屋町
一鳳*		洛東百万辺
田辺玄々*		東寺山吹町
大倉啓斎*		新堀木町二条北
高井文溪*		室町夷川北

表2-11 京羽津根 文久3年版(1863)

名前	流派	居所
土佐光文	土佐派	寺町丸太町上
土佐光武	土佐派	寺町丸太町上
木村了琢		洛東聖護院村
鶴沢探真	鶴沢派	下長者町千本東
狩野永岳	狩野派	丸太町富小路東
勝山琢文	勝山派	新烏丸切通
岸岱	岸派	東洞院丸太町下
円山応立	円山派	姉小路室町東
李喜田松庵		東川端丸太町
横山清輝	四条派	下立売油小路東
中島成章	円山派	富小路姉小路上
原近江介	原派	中立亮室町東
望月玉川	望月派	新町丸太町上
狩野永朝	狩野派	室町丸太町上
長澤芦鳳	円山派	洛東重山下

表2-12 『平安人物志』慶応3年版(1867)

名前	流派	居所
土佐光文	土佐派	寺町丸太町
土佐光章	土佐派	父光文と同居か
土佐光武	土佐派	光文宅の南隣
鶴沢探龍	鶴沢派	下長者町千本東
岸礼	岸派	伏見
岸誠	岸派	東洞院丸太町南
岸慎	岸派	父岸礼と同居か
原在照	原派	中立亮室町東
梅戸在親	原派	小川中立亮北
多村孝秀	円山派	高倉夷川北
下村良進	円山派	東木屋町二条南
島田雅喬	円山派	釜座二條北
中島成章	円山派	柳馬場御池南
吉村孝一	円山派	西六条
長沢芦鳳	円山派	八坂枳屋町
円山応立	円山派	姉小路面替町
高倉在孝	原派	六軒町一条北
小川芦汀		一条室町西
蒲生竹山	円山派	西六条
柴田仙溪	四条派	東洞院夷川北
藤村春汀		山科
原左門		北嵯峨
沢渡精斎	四条派	四条烏丸東
沢渡素軒	四条派	父精斎と同居
中村春幸	四条派	室町松原南
木村秀藏		柳馬場五条北
竹村文琨	四条派	堺町三条北
津田呉輔		新町今出川南
吉坂鷹峰	円山派	
勝山琢如	円山派	父成章と同居
中島章三	勝山家	間之町二条北
泉春園	岸派	一条室町十又坊辻子
谷口華明	岸派	室町一条北
中島華陽	岸派	聖護院村

武沢揚岸		大宮一条南
岡本亮彦	四条派	堺町四条北
岡本常彦	四条派	木屋町四条南
鈴木百年	鈴木派	四条高倉西
塩川文雄	四条派	木屋町四条三丁南
林蘭雅	四条派	塔之段
森義章	四条派	南替町三条北
木村梁舟	狩野派	四条柳馬場西
田辺春嶺		間之町魚棚北
樋口翠江		東六条
佐々木藍水		洛東八坂
八木奇峰	四条派	衣櫛御池南
海北友権	海北家	塔之段
中川雲屏		仏光寺柳馬場西
早藤春英	四条派	川端四条北
祐友鷹	鶴沢派	東中筋五条南
林耕雲	四条派	十文字辻子
長谷川玉峰	四条派	柳馬場三条北
有山旭峰	四条派	油小路御池南
藤木菱洲		諏訪町五条南二丁
岡村雪嶺		南替町押小路南
山崎元鳳	望月派	衣櫛押小路北
国分文友	四条派	松原愛宕寺中
中川江雲		新堀木町丸太町
村瀬双石	四条派	上京
天高美		烏丸丸太町南
林其山		黒門中立亮南
馬淵旭山		鞍馬口室町
青龍山		岡崎
川端玉章	円山派	四条東洞院西
小島彰斎		堺町六角南
高橋正順		東洞院綾小路南
大角有隣		洛東吉田
岸竹堂	岸派	柳馬場押小路北
蒲生清峰		西六条
渡辺丹雄	円山派	新門前縄手東
西山元鳳		富小路姉小路北
岡崎清庵	四条派	高辻高屋西
熊谷直彦	四条派	高倉三条角
前川文嶺	四条派	堺町松原下
前川文雄	四条派	父五嶺宅に同居
竹川友広	円山派	
樋口翠岳		父翠江の東六条に同居
岡本匡高*		上賀茂
黒田西郷*		百万遍屋敷
清亮*		双林寺大雅堂
砂川柳絲*		
中林竹溪*		岡崎
桂呉鳳*		南替町二條南
前田暢堂*		木屋町松原北
日根対山*		聖護院村
名草逸峰*		衣櫛御池北
山本梅屋*		烏丸仏光寺南
永常*		一条殿屋町
一鳳*		百万遍
真亮*		洛東双林寺
原文量*		御幸町二条南
大倉啓斎*		
高井文溪*		高辻柳馬場西
山口蒼海*		御幸町二條角
重春雄*		柳馬場二條北
上野雪岳*		烏丸仏光寺南
森香町*		大宮七条北
中西邦石*	四条派	清水三丁目
中西耕藏*		南堀三条北
中西松石*	四条派	藤井奥橋南
大亦頼蝶*		
張紅閣*		柳馬場二条北

表1は『平安人物志』、『皇都書画人名録』、『京羽二重』、『京羽津根(京洛羽津根)』における絵師の収録数をまとめたものである。『平安人物志』は、明和5年版(1768)から天明2年版(1782)では一巻一冊だったが、文化10年版(1813)から慶応3年版(1867)までは、一冊を上巻・中巻・下巻・付録に分け、『平安人物志』そのものの収録数が大幅に増加した。また、絵師に限れば、天明の大火後に行われた寛政度内裏造営において、これまでは御用絵師^{注11)}のみが内裏に従事していたが、幕府の財政難から町絵師も従事した^{注12)}ことで、町絵師の需要が増加したことも背景にあるのではないかと推測される。『皇都書画人名録』は三条の東から京都を時計回りに回りながらそれぞれの場所に居所を構える絵師が収録されており、御用絵師と町絵師を分けた収録はされていない。また、収録数が246人と同時期に発行された『平安人物志』嘉永5年版(1852)と比較しても約100人も多く収録されている。『京羽二重』は御用絵師が収録されている。『京羽二重』貞享2年版(1685)の収録数が5人である

こと、さらに『平安人物志』明和5年版(1768)との時代差が約80年であることを考慮し、本稿において、『京羽二重』は考察対象外とした。『京羽津根(京洛羽津根)』は町絵師も収録されるが、御用絵師が先に収録され、御用絵師と町絵師を分けて収録している。表2は『平安人物志』、『皇都書画人名録』、『京羽二重』、『京羽津根(京洛羽津根)』に収録される絵師の一覧である^{注13)}。

3. 年代別における居住分布

3-1. 明和から天明における居住分布

『平安人物志』明和5年版(1768)、『平安人物志』安永4年版(1775)によると、居住分布は全体に分散しており、その傾向は看取できない(図1、図2)。『平安人物志』天明2年版(1782)によると、四条堺町から四条高倉には10.3%^{注14)}、二条東洞院から二条新町には13.8%の割合で絵師が居所を構えており、特定の通りに居所を構える傾向が天明から確認できる(図3)。

図1 『平安人物志』明和5年版（1768）にみえる居住分布

図3 『平安人物志』天明2年版（1782）にみえる居住分布

図2 『平安人物志』安永4年版（1775）にみえる居住分布

図4 『平安人物志』文化10年版（1813）にみえる居住分布

3-2. 文化から天保における居住分布

『平安人物志』文化10年版（1813）によると、四条室町から四条室町には11.8%、三条富小路から三条烏丸には5.4%の割合で絵師が居所を構える。また、内裏周辺に居所を構える絵師が登場するが、詳細は4章で述べる（図4）。『平安人物志』文政5年版（1822）によると、二条通には9.4%、四条通には8.5%の割合で絵師が居所を構える。特に二条両替町における居住分布が集中し、特定の地域に居所を構える傾向が文政から確認できる。また、内裏西方に居所を構える絵師が増加することも注目すべき傾向である（図5）。『平

安人物志』文政13年版（1830）によると、四条通と二条通にはそれぞれ9.2%、丸太町通と蛸薬師通にはそれぞれ4.3%の割合で絵師が居所を構える。特定の地域に居所を構える傾向は、二条両替町の他、寺町丸太町、御池衣棚、四条東洞院において確認できる（図6）。『平安人物志』天保9年版（1838）によると、四条通には9.5%、二条通には6.6%、錦小路通には5.8%、中立売通には5.1%の割合で絵師が居所を構える。ここでも寺町丸太町、四条東洞院における居住分布が集中し、新たに室町中立売に集中する（図7）。

図5 『平安人物志』文政5年版(1822)にみえる居住分布

図7 『平安人物志』天保9年版(1838)にみえる居住分布

図6 『平安人物志』文政13年版(1830)にみえる居住分布

図8 『皇都書画人名録』弘化4年版(1847)にみえる居住分布

3-3. 弘化から慶応における居住分布

『皇都書画人名録』弘化4年版(1847)によると、四条通には8.5%、二条通には7.3%、丸太町通には5.7%、六角室町から松原室町には6.1%の割合で絵師が居所を構える。また、寺町丸太町と四条東洞院における集中に加え、寺町今出川と東洞院丸太町においても集中する。四条通以南に居所を構える絵師に注目すると、以前より増加することが確認できる(図8)、『平安人物志』嘉永5年版(1852)に

よると、室町通には12.2%、四条通には11.6%、二条通と丸太町通にはそれぞれ6.8%の割合で絵師が居所を構える(図9)、『京羽津根(京洛羽津根)』文久3年版(1863)によると、丸太町通には46.7%の割合で絵師が居所を構える(図10)、『平安人物志』慶応3年版(1867)によると、四条通には8.8%、二条通には7.8%、三条通と丸太町通にはそれぞれ5.9%の割合で絵師が居所を構え、さらに、鴨川周辺においても集中する(図11)。

図9 『平安人物志』嘉永5年版(1852)にみえる居住分布

図11 『平安人物志』慶応3年版(1867)にみえる居住分布

図10 『京羽津根』文久3年版(1863)にみえる居住分布

図12 内裏周辺にみえる絵師の居住分布

4. 内裏周辺における居住分布

『平安人物志』、『皇都書画人名録』、『京羽津根(京洛羽津根)』において、絵師が内裏周辺に居所を構え始めるのは、『平安人物志』文化10年版(1813)以降である。御用絵師は『平安人物志』において、文化10年版(1813)から登場するが、それ以前から内裏周辺に居所を構えていた可能性がある。一方、町絵師が内裏周辺に居所を構えるようになったのは、『平安人物志』によると、文化10年版(1813)からである。その背景には、収録数が29人(天明2年版)から93人(文化10年版)と増加したことも考えられるが、寛政度内裏造営への参加が主な要因であると推測される。

四条派は、四条通を中心に居所を構えていたことにその名前の由来がある。収録数が137人(『平安人物志』天保9年版)から246

人(『皇都書画人名録』弘化4年版)と増加するが、『皇都書画人名録』弘化4年版(1847)において、内裏北東角にあたる寺町今出川と内裏南方界限に居所を構え、今出川通にまで居住分布が広がることが分かる。円山派は、『平安人物志』文化10年版(1813)から『平安人物志』天保9年版(1838)によると、内裏西方にあたる下長者通と出水通に居所を構える。『皇都書画人名録』弘化4年版(1847)によると、内裏西方から南方へ移動する。岸派は、『平安人物志』文化10年版(1813)によると、内裏南方にあたる丸太町東洞院界限に居所を構える。『平安人物志』文政5年版(1822)から『平安人物志』慶応3年版(1867)によると、丸太町東洞院の他、内裏北西にあたる一条通と中立売通界限にも居所を構える。内裏北西にあたる中立売通界限には、『平安人物志』文化10年版(1813)によると、原派も居所を構える。望月派は、『平安人物志』文化10年版(1813)か

ら『平安人物志』嘉永5年版(1852)によると、居所の転移がみられるが、内裏南西に居所を構える。狩野派^{注15)}は、『平安人物志』文化10年版(1813)から『平安人物志』文政13年版(1830)によると、内裏西方と南方に居所を構えるが、『平安人物志』天保9年版(1838)と『平安人物志』嘉永5年版(1852)によると、内裏南西へ移動する。土佐派は、『平安人物志』文化10年版(1813)から『平安人物志』慶応3年版(1867)によると、一貫して内裏東南角にあたる寺町丸太町に居所を構える。鶴沢派は、『皇都書画人名録』弘化4年版(1847)によると内裏西方にあたる下立売通に居所を構える。

文化から天保において、絵師たちは内裏南方と西方に居所を構えていたが、弘化以降、内裏西方に居所を構える絵師が減少し、内裏南方に居所を構える絵師が増加する(図12)。

5. 郊外における居住分布

表3は、表2から郊外に居所を構える絵師の一覧を示したものである。絵師が郊外に居所を構えるのは、『平安人物志』明和5年版(1768)からみられる。特に祇園界限は池大雅や池玉欄が居所を構えたのをはじめ、多くの絵師が居所を構えることになる。次いで聖護院村、百万遍、岡崎村、伏見といった地域が多く、これらはいずれも『平安人物志』文化10年版(1813)からである。その他、北方では大徳寺、上賀茂、岩倉、西方では妙心寺、北嵯峨、天龍寺、愛宕寺などが、こちらも文化以降みられる。郊外における居住分布の傾向は、文人画家が目立ち、その他、四条派、岸派といった町絵師がよくみられる。一方、御用絵師では鶴沢派の竹内重方と土佐派の恒枝元章のみであり、御用絵師が郊外に居所を構えることは稀である。このように郊外における居住分布は、文人画家、町絵師らが祇園界限、聖護院村、百万遍、岡崎村、伏見、上賀茂、岩倉などの鴨川以東を中心として文化以降、増加傾向にあることが分かる(図13)。

6. まとめ

以上、絵師の居住分布について、その傾向を年代順に看取した。さらに、これらを通して内裏周辺と郊外における居住分布の傾向も看取した。本稿は次のようにまとめることができる。

- 1) 特定の通りに居所を構える傾向が、天明から確認でき、文化以降その傾向が強くなる。主な通りは、二条通・四条通・三条通・丸太町通である。
- 2) 特定の地域に居所を構える傾向が、文政から確認できる。主な地域は、二条両替町・寺町丸太町・四条東洞院である。
- 3) 弘化以降、四条通以南に居所を構える絵師が増加する。
- 4) 内裏周辺では、文化から天保において、絵師は内裏南方と西方にそれぞれ居所を構えていたが、弘化以降、内裏西方に居所を構える絵師が減少し、内裏南方に居所を構える絵師が増加する。
- 5) 郊外に居所を構える絵師は、明和から確認でき、文化以降増加傾向にある。主な地域は祇園界限、聖護院村、百万遍、岡崎村、伏見であり、これらはいずれも鴨川以東である。また、郊外に居所を構える絵師は、文人画家に多くみられ、町絵師では四条派、岸派の絵師が多く、御用絵師はあまりみられなかった。

1)については、『平安人物志』の収録数も考慮すべきではあるが、『平安人物志』天明2年版(1782)から確認できることを考えると、文化以降の収録数増加がその傾向に拍車を掛けたと考えられる。四

表3 郊外に居所を構える絵師一覧

名前	流派	居所	岡本匡保*	上賀茂
『平安人物志』明和5年版(1768)			藤井雪堂*	聖護院村
池大雅*	智恩院袋町	黒田西郷*	今大路悠山*	聖護院
青山文起	七条伏見海道東へ入丁	八条東寺北門前	伏田舒嘯*	岡崎
長谷川青楓	祇園下河原	月峰*	義亮*	双林寺
池玉欄*	『平安人物志』安永4年版(1775)	清亮*	玉欄*	双林寺寺大雅堂
池大雅*	祇園下河原	高東谷	魯堂*	東福寺中
池玉欄*	『平安人物志』天明2年版(1782)	下村淳名	器外*	妙心寺中
池玉欄*	本阿弥屋簾内	器外*	照阿*	雲山
『平安人物志』文化10年版(1813)			皇都書画人名録 弘化4年版(1847)	
原在中	原派	聖護院村	山本雪泉	祇園社内西梅坊
山口素駒	円山派	駒井鷲鳴	正智院	下河原
田中訥言	土佐派	伏見街道	高橋道八	洛東臺山
上田耕夫	円山派	祇園南	羽倉椿東*	五条坂若宮八幡西南
甲賀文龍	望月派	白川側梅宮町	實備堂	北百万遍屋敷
竹内重方	鶴沢派	百万遍屋簾	黒田西郷*	北百万遍屋敷
世古鶴星	聖護院村	上岡崎村	山本鴨青*	上賀茂初官
三宅重見	円山派	百万遍屋簾	岡本権陰	上賀茂初官
三谷五雲	東山永親堂	旭応*	岡本天寿	四条派
玉瀟*	同前(東山永親堂)	玉瀟*	藤大保必	四条派
月峰*	東山双林寺	奇堂*	山本李彦	四条派
明堂*	双林寺門前	明堂*	河村瑞鳳	岸派
玉欄*	東福寺中	明堂*	河村文陽	岸派
『平安人物志』文政5年版(1822)			一風*	洛東吉田
上田耕夫	円山派	南禅寺傍	大角有隣	四条派
三谷五雲	円山派	百万遍竹門屋簾	中林竹洞*	東山真如堂前
紀成成	四条派	嵯峨天龍寺傍	香川星閣	中岡寺
甲賀文龍	望月派	白川側梅宮町	伏田泰盛*	中岡寺
竹内重方	鶴沢派	百万遍竹門屋簾	蓮月尼	上岡崎
世古鶴星	聖護院村	羽倉可亮	南谷坊有輝	岸派
三宅重見	上岡崎村	貴梅村	伏見稻荷社内	四条派
恒枝元章	土佐派	岡崎村栗田	紫野大徳寺	知恩院古門前切通東
巨勢唐儒	聖護院村	義亮*	教亮*	東山双林寺傍
中林竹洞*	聖護院村	清亮*	黒田西郷*	双林寺妙吉寺
広瀬花隠*	高台寺前	黒田西郷*	眞名閑令	東山双林寺
明堂*	大徳寺中	明堂*	宮川白峰	双林寺前鷺尾町東行當
玉欄*	東福寺中	明堂*	『平安人物志』嘉永5年版(1852)	
月峰*	東山双林寺	奇堂*	岸派	岩倉
奇堂*	双林寺門前葛買居	器外*	河村瑞鳳	岸派
器外*	妙心寺中	原田左門	藤村春汀	山科
『平安人物志』文政13年版(1830)			原田左門	北嵯峨
岸駒	岸派	在北岩倉	中島華陽	聖護院村
岸連山	岸派	寓北山	中林竹洞*	上賀茂
甲賀文龍	望月派	白川側梅宮町	岡本匡保*	眞如堂
世古鶴星	聖護院村	黒田西郷*	岡崎	百万遍屋敷
三宅重見	上岡崎村	原文琴*	岡崎	岡崎
藤村春汀	山科里沙門堂	伏田舒嘯*	義亮*	双林寺
原田左門	北嵯峨	清亮*	清亮*	双林寺寺大雅堂
巨勢唐儒	聖護院村	後藤南溪*	原文龍*	聖護院新道
恒枝元章	土佐派	洛北松崎	魯堂*	妙心寺中
谷口華明	岸派	上賀茂	瑞高*	伏見街道十丁南
岡本匡保*	聖護院村	一風*	田辺玄々*	洛東百万遍
藤井雪堂*	聖護院村	黒田西郷*	『平安人物志』慶応3年版(1867)	
竹内義方*	百万遍屋敷	原文琴*	岸派	伏見
今大路悠山*	聖護院村	藤村春汀	原田左門	父岸礼と同居か
黒田西郷*	百万遍屋敷	中島華陽	佐々木藍水	北嵯峨
原文琴*	岡崎人	岡崎	国分文友	聖護院村
伏田舒嘯*	岡崎	青龍山	中西耕石*	四条派
月峰*	東山双林寺	大角有隣	清亮*	洛東吉田
明堂*	大徳寺中	岡本匡保*	黒田西郷*	上賀茂
玉欄*	東福寺中	器外*	清亮*	百万遍屋敷
奇堂*	双林寺門前葛買居	岸駒	中林竹洞*	双林寺大雅堂
義亮*	東山双林寺	藤村春汀	白根対山*	岡崎
清亮*	居双林寺境地大雅堂	原田左門	眞亮*	百万遍
魯堂*	妙心寺中	東東裏	中西耕石*	洛東双林寺
器外*	妙心寺中	谷口華明	中島華陽	清水三丁目
『平安人物志』天保9年版(1838)				
岸駒	岸派	北岩倉		
織田東民		洛東円山		
藤村春汀		山科		
原田左門		北嵯峨		
東東裏		下川原		
谷口華明	岸派	洛北松崎		
中島華陽	岸派	聖護院

図13 郊外にみえる絵師の居住分布

条通における集中は、四条派の存在が大きく関与するものと考えられるが、文化までは円山派の存在も軽視することはできない。また、四条通、室町通への集中は並木氏が指摘しているが、四条通は天明から、室町通は弘化から集中することが本稿で明らかになった。

2)については、『平安人物志』文政5年版(1822)から『皇都書画人名録』弘化4年版(1847)にかけて確認できる。御池衣棚と寺町丸太町を除き、集中する通りの範囲内である。寺町丸太町には土佐派が、四条東洞院には四条派が、東洞院丸太町には岸派が集中し、二条両替町・御池衣棚・室町中立売には流派に関係なく集中する。土佐派は寺町丸太町に居所を構える傾向があった、というように流派による居住分布の傾向が存在することを前者によって伺える。

3)に関して、四条通以南に居所を構える絵師の割合は、『平安人物志』天保9年版(1838)まで10%を超えないが、『皇都書画人名録』弘化4年版(1847)以降、15%を超え、居住分布図と2つの視点から確認できる。

4)の内裏周辺における居住分布に関して、『平安人物志』天明2年版(1782)と『平安人物志』文化10年版(1813)の両版に収録される4人の絵師のうち、岸派の岸駒と円山派の島田元直が内裏周辺に移動し、かつこの2人は寛政度内裏造営に参加している。このように、内裏造営に参加した絵師が内裏周辺に移動しており、文化以降、多くの町絵師が内裏御用を勤めることに比例し、内裏周辺に居所を構える絵師が増加することから、内裏造営への参加が絵師の居住地に影響を与えた面があるのではないかと考えられる。これは西陣・伏見など京都における居住地形成とは異なるあり方が、近世の絵師居住の動向には確認できる、という意味で注目される。

5)に関して、文人画家の中には僧侶も含まれ、彼らが郊外に居所を構えるのは、寺地が郊外に存在したためであるが、聖護院村や岡崎村などには僧侶でない文人画家や町絵師が居所を構える。

7. おわりに

呉春の四条派、円山応挙の円山派、岸駒の岸派、原在中の原派、さらに池大雅と与謝蕪村によって大成された文人画などの台頭により、近世京都画壇はまさに百花繚乱の時代であった。町絵師が幕府の御用を勤めたことで、居住地形成に大きな変化をもたらした。朝廷・幕府の御用を勤めることは、当時の絵師にとって、最大の関心事であり、かつ名誉であるといっても過言ではない。とすれば、彼らの居所は依頼者の身分や地位、さらに居住地に左右されるのではないかと考えられる。

並木氏は、『平安人物志』9版のなかで絵師の居住地についてはそれほど大きな変化は見られない^{注16)}と指摘している。だが、本稿で明らかになったように、天明・文政・弘化において絵師の居住地について、変化が看取された。さらに、流派による居住分布の傾向が存在する可能性を得た。

本稿によって、近世京都における絵師の居所について、その一端を垣間見ることができた。全貌解明のためには、流派による居住分布の傾向や、当時の大火・地震・水害といった自然災害による影響の検討も必要である。また、近世の郊外居所化と近代以降の郊外居所化を、比較検討する必要もあるだろう。さらに、絵師の身分や社会的地位などを踏まえて、居所は当時どのようなすがたをしていたのかなど、解明すべき残された課題は少なくない。

注

- 注1) 森銃三・中島理寿編『近世人名録集成』第一巻、勉誠社、1976年所収。他に、国際日本文化研究センターがウェブ上で公開している「平安人物志データベース」があり、適宜参照した。
- 注2) 森銃三・中島理寿編『近世人名録集成』第四巻、勉誠社、1976年所収。
- 注3) 『新修京都叢書』第六巻、光彩社、1968年所収。
- 注4) 『新撰京都叢書』第二巻、臨川書店、1986年所収。
- 注5) 『京の絵師は百花繚乱』京都文化博物館、1998年において、『平安人物志』に収録される絵師の分布地図が作成された(P.316,317,318)が、3版をまとめた分布地図であり収録される絵師すべてを網羅していない。本稿の分布地図は、居所が判明する絵師をすべて版ごとに反映させた。
- 注6) 『平安人物志』については、1970年代に小笹喜三氏(小笹喜三編著、平春生補稿『平安人物志 短冊集影』思文閣、1973年)、竹林忠男氏(『平安人物志』およびその書家について、京都府立総合資料館『資料館紀要』2号、1973年)、宗政五十緒氏(京都の文化社会―『平安人物志』化政版と京都―(林屋辰三郎編『化政文化の研究』岩波書店、1976年))の研究が存在する。
- 注7) 並木誠士「近代京都における画家の居所―中世から近代への展開」(研究代表者中川理『郊外住宅地開発を導いた学術・芸術・芸能に関わる人々の居住動向に関する歴史的研究―近代京都を事例として―』、2004年)
- 注8) 田島達也「『平安人物志』を読む」 注5前掲。
- 注9) 武智正智による『平安人物志』人名録がウェブ上で公開されている。
- 注10) 久保智康「京都の鏝師たち」(『日本の美術 10号、No.437』至文堂、2002年)
- 注11) 本稿では狩野派、土佐派、鶴沢派を御用絵師と呼ぶ。町絵師とは御用絵師でない四条派、円山派、岸派、原派、望月派の絵師集団やどの流派にも所屬しない絵師のことを指す。
- 注12) 武田庸二郎「寛政度禁裏御所造営における絵師の選定について」(『近世御用絵師の史的研究―幕藩制社会における絵師の身分と序列―』思文閣、2008年)
- 注13) 発行年順に表を作成し、左に収録される絵師の名前を、中央に絵師が所屬する流派を、右に居所を示した。名前の表記は、『平安人物志』に登場する画家一覧(注5前掲)に従ったが、『京羽二重』、『皇都書画人名録』、『京羽津根(京羽洛津根)』では原文のまま用いたものもある。また、表2-3、表2-4に「望月玉仙」とあるが、原文は上段に「望玉蟾」、下段に「望月与五郎」である。初代望月玉蟾は宝暦3年(1753)もしくは同5年(1755)に没しており、「画家解説」(注5前掲)においても、望月玉仙と判断されているので、本稿もそれに従った。同様の事例が他にもあり適時、判断し表を作成した。流派を特定するにあたり、「画家解説」、「流派系図」(共に注5前掲)、『日本書画名家辞典』柏書房、1981年、『辞典叢書 15 日本書画人名辞書』東出版、1996年を参照した。また、『皇都書画人名録』において、例えば、「〇〇先生門人」と記載される絵師については、師匠の流派が判明している場合、同じ流派とした。さらに、流派欄の表記については、「流派系図」(注5前掲)の表記に従い、「〇〇派」と「〇〇家」の二種類ある。名前の右側に「*」がある絵師は文人画家であることを示す。『平安人物志』において、明和5年版(1768)から天明2年版(1782)では文人画家とそうでない絵師が一括して扱われており、文化10年版(1813)では上巻に登場する絵師が文人画家に相当し、文政5年版(1822)以降では文人画家の項目がある。中央が空欄の絵師はどの流派にも所屬しない絵師であることを示す。居所が空欄である絵師は『平安人物志』、『皇都書画人名録』、『京羽二重』、『京羽津根(京洛羽津根)』において、不記載であった。
- 注14) 算出方法は、「(ある通りに居所を構える絵師の人数) / (収録数) × 100 (%)」である(小数点第2位を四捨五入)。この場合、『平安人物志』天明2年版(1782)の収録数は29人で、そのうち3人が四条堀町から四条高倉に居所を構える。よって、その割合は「3/29×100=10.3%」となる。以下、同様の手順で割合を算出した。
- 注15) 狩野山楽を祖とする京狩野派。
- 注16) 注7前掲。

(2009年11月10日原稿受理、2010年5月6日採用決定)